

番号	項目	意見・質問等	回答	追加(補正)回答
1	設計	斜面の安定計算において、石灰改良土による土壌堤の地盤定数に砂質土の地盤定数が使用されているが、石灰改良土は砂質土と同等の性状なのか。通常は、砂質土ではなく粘質土の地盤定数が使用されるのではないのか。	確認の上回答する。	安定計算では砂質土の締め固めたもので行っておりますが、石灰改良土を使用することで粘着力など安全側に作用し問題は無いと考えており、土えん堤施工については経験値のある施工業者と十分に相談します。
2	設計	斜面の安定計算において、地震の影響を考慮した計算は行われているが、大雨による影響を考慮した計算は行われているか。	大雨による影響を考慮した計算は行っておりません。	雨量による地下水の水位の推定が困難なため計算はしておりませんが、施工時に土木の標準仕様である厚さ30cm毎の重機等による転圧・締固めを十分に施工します。
3	設計	浸透水集排水管の無孔部の一部しか図面上底土に埋まっていないが、無孔部が埋まるように設計されているのか。	浸透水集排水管の無孔部が底土に埋まるよう施工します。	
4	設計	浸透水集排水管を覆う栗石は、有孔管が目詰まりしないよう大きさが違うものを組み合わせていただきたい。なお、グラスウールは有孔管の目詰まりの原因になるので使用しないでいただきたい。	有孔管の目詰まりを防ぐため、大きい栗石を使用するよう計画を変更したいと思います。	栗石の大きさは10～15cmのものを織り交ぜて使用します。
5	ミニアセス(水質)	浸透水の水質測定結果があるが、浸透水という言葉をもどのような意味で使っているのか分からないので、説明していただきたい。	最終処分場の浸透水ではなく、浸透水が出てくると予想される部分の水を採取して測定したものです。	
6	ミニアセス(地下水)	最終処分場の下流側の地下水測定地点は、可能な限り埋立区画の近くに設定していただきたい。また、当該測定地点が、埋立区画から流れてくる浸透水を確実に検出できるか確認いただきたい。	最終処分場の下流側の地下水測定地点については、申請者である大坪産業(株)と再度協議したいと思います。	埋立開始前までに地下水下流のモニタリング井戸の移設及び地下水質調査を実施いたします。なお、モニタリング井戸は、可能な限り浸透水の排出口及び埋立区画の近くに設置することとします。
7	設計	周囲水路の設計計算の表の流域面積について、どの流域を足しているか分かるように資料を作成していただきたい。	周囲水路の設計計算の表の流域面積について、どの流域を足しているか分かるよう資料を修正します。	
8	設計	沈砂池の計算にある処理水量の「約4,500m ³ /h」はどのような雨を想定しているのか。	佐賀県の河川砂防課の「佐賀地方における短時間確率雨量強度式」から「佐賀(東部地区)の50年確率雨量、10分雨量」を採用しています。	149.6mm/h、流出係数0.9、裸地3.34haで洪水流量を算出しています。
9	設計	沈砂池の計算にある沈降速度の「13.32m/h」は達成できるのか。	粒子比重2.65、粒子直径0.07mm、沈降速度3.7mm/sと設定して沈降理論により必要な表面積を求め、沈砂池表面積が大きいことを確認しており、達成可能であります。	
10	ミニアセス(地下水)	地質が風化花崗岩であり、また、ボーリング調査で内部に隙間あることから、間隙水が入ると更に風化が進んでボロボロになるので、大雨による地盤の風化を考慮した斜面の安定計算など行っていただきたい。		埋立予定地及びその下流は硬質の花崗岩で、風化は数百年単位で少しずつ進行すると考えられるため、現状の地質を総合的に判断して計算しています。
11	ミニアセス(地下水)	処分場の水収支(流入量、流出量)や、埋立区画通過後の水質(BOD等)、地盤の透水係数などはどのように想定しているのか。	処分場の水収支などは検討されていないが、廃棄物処理法の問題や、申請者の考えもあるため、委員の皆様にご相談しながら進めていきたいと思っています。	下記12項と同じ内容で対応を考えております。
12	ミニアセス(地下水)、意見聴取結果	最終処分場の地下水の帯水層と下流の集落の帯水層の関係、水収支や水質の想定などの調査が必要であり、問題がないことを地域住民に対して丁寧に説明していただきたい。	この件については、廃棄物処理法の問題や、申請者の考えもあるため、委員の皆様にご相談しながら進めていきたいと思っています。	下流側直近2軒の住宅井戸で地下水のイオン分析、環境基準項目を行い、計画地内の地下水とは異なる型の水質と判断されたため、維持管理の水質検査で監視します。さらに、処分場下流のモニタリング井戸で浸透水と同じように月1回BODを測定し、万一、水質に異常が見られた時は速やかに直近民家でも水質調査を実施し、現況把握を行います。

番号	項目	意見・質問等	回答	追加(補正)回答
13	意見聴取結果	関係市長から「申請者は地域住民に対して、十分に説明し理解を得ること」旨の意見が出ていることから、住民に対して丁寧に説明して住民の理解を得ていただきたい。	この件については、廃棄物処理法の問題や、申請者の考えもあるため、委員の皆様にご相談しながら進めていきたいと思います。	住民の方々にしましてはこれまで説明会を開催し質疑応答も行っておりますが、今後も必要に応じて丁寧な説明をし、理解を得られるよう努力致します。
14	ミニアセス(水質)	浸透水の放流口と放流先河川下流が離れ過ぎではないか。離れている場合は、浸透水が希釈される前の評価のため、放流口直下での測定を検討いただきたい。	放流先河川下流①は、集落を通過する前の地点で、また、排水水が100倍に希釈されることも考慮しています。また、放流先河川下流②は集落通過後の水質がどうなるかを調査するためです。	埋立開始後は浸透水の検査をBODについては月1回、地下水等検査項目については年1回以上実施し、希釈される前の水質を確認します。また、放流先河川については3か所測定を実施しており、現状の河川の水質は把握できていると考えておりますが、15項と同じ内容を追加実施します。
15	ミニアセス(水質)	河川の生物への浸透水の影響も調査するため、浸透水が希釈される前の浸透水の放流口直下での測定も検討いただきたい。		埋立開始後、浸透水の放流口直下で生活環境項目(9項目)の測定を実施します。また万一、維持管理の水質に異常が見られた時は、速やかに浸透水の放流口直下での水質調査を実施し、現状把握を行います。
16	ミニアセス(交通量)	搬入道路の交通量の現地調査はどこで行ったのか。	鳥栖市牛原町地区の集落を通過する市道で、最終処分場予定地の直近の人家付近で現地調査を行いました。	
17	ミニアセス(水質)、意見聴取結果	利害関係者から、「安良川において原因不明の濁り水が発生している」旨の意見が出ているが、今回の調査ではそのような事実はなかったのか。	文献調査や現地調査では、安良川の水質の異常は確認されていませんが、安良川が濁っていることは把握しています。なお、上流の最終処分場の浸透水に異常がないことは県の検査でも確認しており、また、採石業者からの排水については関係課に情報提供しています。	
18	設計	水路③の勾配が40%程度あり、水が沈砂池へ滝のように流れ込み、巻き上げが起きる可能性があるが、沈砂池で対応できるか。	水路③から沈砂池に流れ込む部分にはふとん籠を設置し、巻き上げが起らないようにしています。	
19	設計	土堰堤の底部に透水性の高い建設残土を埋め立てたところがあるが、その部分に降った雨が流れてきて水が溜まらないのか。その水が下の風化花崗岩に入り風化していくことを懸念している。	その部分には水が溜まることになると考えています。	安定計算に表記の捨土は現場にある建設残土で、それを再利用して土木の標準仕様による厚さ30cm毎のローラー等の重機による転圧・締固めを行い勾配を取り、雨水を下流へ導くよう施工して停留しないようにします。また転圧・締め固めたあとは透水試験を実施し、必要があれば適切な対応を取ります。
20	設計	土堰堤は透水性の高い建設残土の上ではなく、岩盤まで掘削してその上に設置していただきたい。	一度検討します。	土堰堤計画地の下部に一部現状沈砂池部分があり、現場の建設残土を利用して30cm毎の転圧・締固めで埋立てた上に土堰堤を施工し、安定化を図ります。また転圧・締め固めたあとは透水試験を実施し、必要があれば適切な対応を取ります。
21	設計	様々な情報を入手できるので、埋立区画の法面にも集排水管やガス抜き管の設置を検討いただきたい。	施工は可能だと思いますが、一度検討します。	底部集排水管(有孔管)上に設置するので、最終的には法面にも設置することになります。
22	維持管理基準	地域住民の安心のため、自社廃棄物の埋立てに当たっては、展開検査だけでなく溶出試験などを実施し、その結果の公表など実施いただきたい。		自社廃棄物について年1回の溶出試験を行い、測定結果を公表します。
23	意見聴取結果	地域住民の安全安心のためや、地域住民の不安を取り除くための対応を取っていただきたい。		住民の方々にしましてはこれまで説明会を開催し質疑応答も行っておりますが、今後も必要に応じて丁寧な説明をし、理解を得られるよう努力致します。また地元からの事業場視察などいつでも対応できる体制を整えます。
24	設計	降水量は何を根拠にしているのか。		佐賀地方における短時間確率降雨強度式(佐賀県県土づくり本部河川砂防課)を採用しております。